

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		児童福祉総務事業（児童手当関連）				
	担当課・係名		町民生活課 住民年金係				
	予算 科目	会計区分	一般会計	基本計 画体系	大分類	02 未来に羽ばたくチカラ	
		款	03 民生費		中分類	02 少子化社会への対応の充実	
		項	02 児童福祉費		小分類	01 子育て支援事業の充実	
目		01 児童福祉総務費	重要推進プロジェクト該当の有無 <input type="checkbox"/>				
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
	総事業費（千円）		349	349	349	349	352
	財源 内訳	国県支出金	0	0	0	0	0
		その他特定財源	0	0	0	0	0
		一般財源	349	349	349	349	352
z							
③	対象（誰、何を対象にするのか） 児童措置事業と統合						
④	目的・意図する成果（どのような成果をもたらしたいのか）						
⑤	事業概要						
⑥	事業を取り巻く状況の変化について						
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等）						
⑧	事業の活動指標（事業の活動量を示す数値）						
	指 標 名			H28	H29	H30	
	A	単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
	定義						
B	単位：	実績値	0	0	0		
		目標値	0	0	0		
定義							
⑨	事業の成果を測る指標（事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値）						
	指 標 名			H28	H29	H30	
	A	単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
	定義						
B	単位：	実績値	0	0	0		
		目標値	0	0	0		
定義							

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	5
イ 最も適切な方法で行われている	5
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	5
評価の説明 点数 15	法定事務
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	5
イ 目的を達成するために有効な事業である	5
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	5
評価の説明 点数 15	児童手当受給者、児童手当支給の適正な管理及び事務の省力化が図られる。
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	5
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	5
ウ 受益者負担は適正である	5
評価の説明 点数 15	住基・税情報等の連携が必要なため、住基システムと同一事業者に委託している。
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	5
評価の説明 点数 5	特になし

⑪	課長総括評価	ほぼ適正に事務が進められている。
	合計点 50	
	今後の方向性	現状のまま継続

⑫	二次評価	
	今後の方向性	

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		児童措置事業				
	担当課・係名		町民生活課 住民年金係				
	予算 科目	会計区分	一般会計	基本計 画体系	大分類	02 未来に羽ばたくチカラ	
		款	03 民生費		中分類	02 少子化社会への対応の充実	
		項	02 児童福祉費		小分類	01 子育て支援事業の充実	
目		02 児童措置費	重要推進プロジェクト該当の有無 <input type="checkbox"/>				
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
	総事業費（千円）		113,785	113,785	110,140	110,140	110,101
	財源 内訳	国県支出金	96,384	96,386	93,280	93,280	93,262
		その他特定財源	0	0	0	0	0
		一般財源	17,401	17,399	16,860	16,860	16,839
※H29・H30予算は最終予算額。R1は9月補正後の額。							
③	対象（誰、何を対象にするのか）						
	町内に住所を有する0歳から中学校修了前の児童						
④	目的・意図する成果(どのような成果をもたらしたいのか)						
	中学校修了前の児童のいる家庭の生活の安定に寄与し、児童健全育成及び資質の向上に資する。						
⑤	事業概要						
	平成21年度までの児童手当が、平成22年度から23年度までの2年間、子ども手当として0歳から中学生までの全ての児童に手当を支給してきたが、平成24年度から再び児童手当制度に戻り、所得制限も復活した。支給額（児童一人の月額）：3歳未満15,000円 3歳以上小学校修了前（第1・2子 10,000円 第3子以降15,000円）中学生10,000円 所得制限者 5,000円						
⑥	事業を取り巻く状況の変化について						
	平成22年度より、次代の社会を担う子ども一人ひとりの育ちを社会全体で応援するという理念のもと、家計の収入の如何に関わらず子ども手当として支給してきたが、児童手当法の改正により、24年度から再び児童手当として支給することになった。制度改正に伴い、電算システムの改修が必要になる。						
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等）						
	児童手当法						
⑧	事業の活動指標(事業の活動量を示す数値)						
	指標名			H28	H29	H30	
	A	単位：人	実績値	10,501	10,130	9,803	
			目標値	0	0	9,803	
	定義	児童手当認定児童延べ人数					
	B	単位：人	実績値	645	641	611	
			目標値	0	0	0	
	定義	児童手当認定受給者（親）数					
⑨	事業の成果を測る指標(事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値)						
	指標名			H28	H29	H30	
	A	単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
	定義						
	B	単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
	定義						

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	5
イ 最も適切な方法で行われている	5
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	5
評価の説明 点数 15	法定受託事務
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	5
イ 目的を達成するために有効な事業である	5
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	5
評価の説明 点数 15	受給世帯の経済的負担の軽減
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	5
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	5
ウ 受益者負担は適正である	5
評価の説明 点数 15	法に基づく事業で適正である
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	5
評価の説明 点数 5	認定手続きを窓口で行うため、手当制度の周知徹底し、受給認定者が確実に手当を受給している

⑪	課長総括評価 合計点 50	ほぼ適正に事務が進められた。
	今後の方向性	現状のまま継続

⑫	二次評価	
	今後の方向性	

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		母子父子家庭医療費助成事業				
	担当課・係名		町民生活課 国民健康保険係				
	予算 科目	会計区分	一般会計	基本計 画体系	大分類	02 未来に羽ばたくチカラ	
		款	03 民生費		中分類	02 少子化社会への対応の充実	
項		02 児童福祉費	小分類		01 子育て支援事業の充実		
目	03 母子福祉費	重要推進プロジェクト該当の有無 <input checked="" type="checkbox"/>					
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
	総事業費（千円）		893	845	733	698	1,593
	財源 内訳	国県支出金	500	516	340	348	780
		その他特定財源	0	0	0	0	0
		一般財源	393	329	393	350	813
※H27・H28予算は最終予算額。H29は9月補正後の額。							
③	対象（誰、何を対象にするのか）						
町内に住所を有するひとり親とその子ども並びに両親のいない子ども							
④	目的・意図する成果(どのような成果をもたらしたいのか)						
配偶者のいない女子又は男子と、現にその扶養を受けている児童並びに父母のいない児童で構成されている家庭に対して医療費を助成することにより、母子父子家庭の生活の安定と福祉の増進を図ることを目的とし、ひとり親家庭等の医療費の経済的負担の軽減による生活の安定と福祉向上に努める。							
⑤	事業概要						
町内に住所を有するひとり親とその子ども並びに両親のいない子どもを対象として医療機関等で支払った医療費（外来：1,000円を超えた額、入院：2,000円を超えた額）に対して助成を行う。							
⑥	事業を取り巻く状況の変化について						
ひとり親世帯は年々微増傾向にあるが対象者数・医療費はほぼ横ばいで異動しており、安定して推移している。しかし、高額医療を要する対象者が出ると事業費が一気に増加する懸念がある。							
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等）						
色麻町母子父子家庭医療費の助成に関する条例							
⑧	事業の活動指標(事業の活動量を示す数値)						
指標名			H28	H29	H30		
A	受給者数	単位：人	実績値	80	84	86	
			目標値	0	0	0	
定義							
B		単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							
⑨	事業の成果を測る指標(事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値)						
指標名			H28	H29	H30		
A		単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							
B		単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	5
イ 最も適切な方法で行われている	5
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	5
評価の説明 点数 15	医療費の助成により母子父子家庭への医療受診の支援となっている。
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	5
イ 目的を達成するために有効な事業である	5
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	5
評価の説明 点数 15	ひとり親の家庭が経済的な負担を気にせず医療を受けられる。
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	5
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	5
ウ 受益者負担は適正である	5
評価の説明 点数 15	条例等に基づいて執行されており効率が高い。
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	5
評価の説明 点数 5	事業目的を達成している。

⑪	課長総括評価 合計点 50	当該世帯の健康を保持し、生活の安定と福祉の向上に寄与している。
今後の方向性	現状のまま継続	

⑫	二次評価	
今後の方向性		

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		乳幼児・児童医療費助成事業				
	担当課・係名		町民生活課 国民健康保険係				
	予算 科目	会計区分	一般会計	基本計 画体系	大分類	02 未来に羽ばたくチカラ	
		款	03 民生費		中分類	02 少子化社会への対応の充実	
		項	02 児童福祉費		小分類	01 子育て支援事業の充実	
目		07 乳幼児医療対策費	重要推進プロジェクト該当の有無 <input checked="" type="checkbox"/>				
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
	総事業費（千円）		29,003	28,892	30,056	29,998	34,561
	財源 内訳	国県支出金	4,501	4,582	4,468	4,474	5,965
		その他特定財源	1,722	1,723	2,127	2,128	0
		一般財源	22,780	22,587	23,461	23,396	28,596
※H27・H28予算は最終予算額。H29は9月補正後の額。							
③	対象（誰、何を対象にするのか）						
町内に住所を有する乳幼児・児童（生活保護受給者を除く） ・乳幼児：出生から6歳に達する日の属する年度の末日まで ・児 童：18歳に達する日の属する年度の末日まで							
④	目的・意図する成果（どのような成果をもたらしたいのか）						
乳幼児・児童の医療費の一部を助成し、医療の機会を確保することにより、乳幼児・児童の福祉の増進を図る。少子化対策が推進されている中で、子育て世帯の医療費の経済的負担が軽減されている。							
⑤	事業概要						
0歳児から18歳までのすべての乳幼児及び児童の入院及び外来の医療費を助成（県補助事業有り）							
⑥	事業を取り巻く状況の変化について						
対象件数、医療費共に微増傾向にあるが、安定して推移している。 しかし、高額医療を要する対象者が出ると事業費が一気に増加する懸念がある。 また、平成27年度からは児童の対象年齢を18歳（高校卒業時）まで拡大した。							
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等）						
色麻町乳幼児及び児童医療費の助成に関する条例							
⑧	事業の活動指標（事業の活動量を示す数値）						
指 標 名			H28	H29	H30		
A	受給者数	単位：人	実績値	1,151	1,071	1,042	
			目標値	0	0	0	
定義							
B		単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							
⑨	事業の成果を測る指標（事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値）						
指 標 名			H28	H29	H30		
A		単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							
B		単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	5
イ 最も適切な方法で行われている	5
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	5
評価の説明 点数 15	乳幼児及び児童の健康の保持を促進するため必要な事業である。
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	5
イ 目的を達成するために有効な事業である	5
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	5
評価の説明 点数 15	子育て世帯の医療費に関する負担の軽減
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	5
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	5
ウ 受益者負担は適正である	5
評価の説明 点数 15	少子化対策も含まれているため、コスト的に適正かどうかは判断に難しいが、目的からして適正である。
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	5
評価の説明 点数 5	事業目的を達成している。

⑪	課長総括評価 合計点 50	平成18年度から所得制限を撤廃し15歳まで拡充し、事業を実施してきたが、少子化対策を更に充実させるため、さらに18歳まで拡充した。今後も子育て支援のため継続する必要がある。
	今後の方向性	現状のまま継続

⑫	二次評価	
	今後の方向性	

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		子ども・子育て支援制度事業				
	担当課・係名		保健福祉課 子育て支援室				
	予算 科目	会計区分	一般会計	基本計 画体系	大分類	02 未来に羽ばたくチカラ	
		款	03 民生費		中分類	02 少子化社会への対応の充実	
		項	02 児童福祉費		小分類	01 子育て支援事業の充実	
目		01 児童福祉総務費	重要推進プロジェクト該当の有無 <input type="checkbox"/>				
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
	総事業費（千円）		18,454	17,164	14,662	12,010	17,360
	財源 内訳	国県支出金	9,332	9,700	4,291	5,184	9,209
		その他特定財源	600	677	643	730	1
		一般財源	8,522	6,787	9,728	6,096	8,150
※H29・H30予算は最終予算額。R1は9月補正後の額。							
③	対象（誰、何を対象にするのか）						
	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の必要のある町内未就学児童とその保護者 ・子ども・子育て会議委員 						
④	目的・意図する成果(どのような成果をもたらしたいのか)						
	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども・子育て支援制度を推進するための「子ども・子育て会議」の運営、システム管理を行う。また、待機児童の解消と幼児の健やかな成長を育むため、保育の必要がある児童を居住地以外の保育所に入所委託すること及び町内の保育所入所事務に関すること。 						
⑤	事業概要						
	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども・子育てシステムの管理 ・子ども・子育て支援事業計画の進捗管理 ・子ども・子育て会議の運営 ・広域入所に関する事務 						
⑥	事業を取り巻く状況の変化について						
	<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度より子ども・子育て支援新制度がスタートし施設利用については、広範囲の利用希望が可能になったが、委託費が増額している。特に他町の公立の保育所への入所委託に対しては補助金が無い。さらに、委託希望先の市町村の状況も待機児童が発生しているため、他町の児童の入所は難しい面もある。 						
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等）						
	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども・子育て支援法 						
⑧	事業の活動指標(事業の活動量を示す数値)						
	指標名			H28	H29	H30	
	A	広域入所利用者 単位：	実績値	17	18	15	
			目標値	17	18	15	
	定義	町外の施設を希望し広域入所利用している人数。					
	B	単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							
⑨	事業の成果を測る指標(事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値)						
	指標名			H28	H29	H30	
	A	広域入所利用者 単位：	実績値	17	18	15	
			目標値	17	18	15	
	定義	町外の施設を希望し広域入所利用している人数。					
	B	単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	5
イ 最も適切な方法で行われている	5
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	5
評価の説明 点数 15	保護者の就労の事情などにより、希望の施設及び適切な施設を探し所在地の市町村役場に入所の手続きをとる。
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	4
イ 目的を達成するために有効な事業である	4
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	4
評価の説明 点数 12	私立への広域入所は補助金の対象となるが公立の利用は町の負担になる為、今後公立の利用については疑問がある。また、町として委託するだけの状況であり他町からの受け入れができない状況は懸念される。
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	5
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	3
ウ 受益者負担は適正である	4
評価の説明 点数 12	委託費として町の経費がかかる。また、他町の児童を受け入れる状況でない。
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	4
評価の説明 点数 4	それぞれの事情に併せた施設選びをしながら保護者のニーズに対応している。

⑪	課長総括評価 合計点 43	0歳児の入所希望児童数が年々増加している。保護者のニーズに応える為に、広域入所を検討し、町として関係する市町村と連携をとり保護者のニーズに対応していきたい。
今後の方向性	現状のまま継続	

⑫	二次評価	
今後の方向性		

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		出産祝金交付事業				
	担当課・係名		保健福祉課 子育て支援室				
	予算科目	会計区分	一般会計	基本計画体系	大分類	02 未来に羽ばたくチカラ	
		款	03 民生費		中分類	02 少子化社会への対応の充実	
項		02 児童福祉費	小分類		01 子育て支援事業の充実		
	目	03 母子福祉費	重要推進プロジェクト該当の有無 <input type="checkbox"/>				
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
	総事業費（千円）		1,850	1,800	1,650	1,650	1,650
	財源内訳	国県支出金	0	40	0	0	0
		その他特定財源	0	0	0	0	0
		一般財源	1,850	1,760	1,650	1,650	1,650
※H29・H30予算は最終予算額。R1は9月補正後の額。							
③	対象（誰、何を対象にするのか）						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 出産の日の一年前から住所を有し出産後引き続き6か月以上町内に住所を有し、かつ、現に居住している方 							
④	目的・意図する成果（どのような成果をもたらしたいのか）						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生まれたお子さんの健やかな成長を祝う。 ・ 少子化対策及び子育て世代の定住促進を図る。 							
⑤	事業概要						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 多子世帯に対し出産祝い金を支給する。 第2子：50,000円 第3子以降：100,000円 							
⑥	事業を取り巻く状況の変化について						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 出生数が減少している 							
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等）						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 色麻町子育て支援出産祝金支給条例 ・ 色麻町子育て支援出産祝金支給条例施行規則 							
⑧	事業の活動指標（事業の活動量を示す数値）						
		指標名		H28	H29	H30	
A	出産祝い金	単位：人	実績値	7	28	22	
			目標値	7	28	22	
定義	出生者数：対象者数28名（内訳 第3子以上 8名， 第2子 20名）						
B		単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							
⑨	事業の成果を測る指標（事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値）						
		指標名		H28	H29	H30	
A	出産祝い金	単位：	実績値	7	28	22	
			目標値	7	28	22	
定義	第3子以降11名 1,100,000円， 第2子11名 50,000円×11=550,000円 合計 1,650,000円						
B		単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	4
イ 最も適切な方法で行われている	3
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	3
評価の説明 点数 10	県の事業「少子化対策交付金」の出産祝い金は平成29年度までとなっている。
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	3
イ 目的を達成するために有効な事業である	3
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	3
評価の説明 点数 9	児童数が年々減少している。
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	3
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	3
ウ 受益者負担は適正である	3
評価の説明 点数 9	児童数が年々減少しており、今後、金額及び対象児童について検討見直しの必要がある。
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	3
評価の説明 点数 3	多子世帯の子育て負担の軽減や少子化対策、定住促進を図ることを目的としていたが対象児童が減少しているのが現状である。 社会情勢や住民ニーズを考慮し内容が適切かどうか検討中である。

⑪	課長総括評価 合計点 31	対象児童（第2子から）や祝い金額の見直し検討が今後必要であると思われるが、現状のまま継続する。
今後の方向性	現状のまま継続	

⑫	二次評価	
今後の方向性		

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		児童センター事業				
	担当課・係名		保健福祉課 子育て支援室				
	予算 科目	会計区分	一般会計	基本計 画体系	大分類	02 未来に羽ばたくチカラ	
		款	03 民生費		中分類	02 少子化社会への対応の充実	
		項	02 児童福祉費		小分類	01 子育て支援事業の充実	
目		04 児童センター費	重要推進プロジェクト該当の有無 <input type="checkbox"/>				
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
	総事業費（千円）		667	592	391	307	391
	財源 内訳	国県支出金	0	0	0	0	0
		その他特定財源	6	10	6	11	4
		一般財源	661	582	385	296	387
※H29・H30予算は最終予算額。R1は9月補正後の額。							
③	対象（誰、何を対象にするのか）						
	<ul style="list-style-type: none"> ・0歳から18歳までの児童。（未就学児については、大人同伴での利用） ・各行事については、町内小学校在学児童を対象。 						
④	目的・意図する成果(どのような成果をもたらしたいのか)						
	<ul style="list-style-type: none"> ・児童がルールの中で、自由にあそび、集団的及び個別的に様々な体験や交流を通し、心身共に健やかに育成することを目的としている。 						
⑤	事業概要						
	<ul style="list-style-type: none"> ・自由来館児童の受け入れ（午前9時から12時・午後1時から4時） ・行事の開催・夏休み、冬休み、春休みに製作活動やクッキング教室を開催。 						
⑥	事業を取り巻く状況の変化について						
	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の健全育成を進めていく上で、「遊び」が重視されていることから、自発的にあそべる場所を提供し、自由にあそび、安全に過ごすことのできる居場所づくりにつながっている。 						
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等）						
	<ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉法 ・色麻町児童センター運営協議会規則 ・色麻町子育て支援センター事業実施要綱 						
⑧	事業の活動指標(事業の活動量を示す数値)						
	指標名			H28	H29	H30	
	A	延べ利用者数 単位：人	実績値	9,688	11,622	9,784	
			目標値	8,000	8,000	8,000	
	定義	◎児童センター事業の利用者数を目標数値として表した。					
	B	単位：	実績値				
			目標値	0	0	0	
	定義						
⑨	事業の成果を測る指標(事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値)						
	指標名			H28	H29	H30	
	A	単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
	定義						
	B	単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
	定義						

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	4
イ 最も適切な方法で行われている	4
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	4
評価の説明 点数 12	各市町村において、設置は必須であり、今後も町で行う事業である。
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	4
イ 目的を達成するために有効な事業である	4
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	4
評価の説明 点数 12	長期休暇の夏休みなど、利用児童が多く、有効な事業である。
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	4
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	4
ウ 受益者負担は適正である	4
評価の説明 点数 12	設備面の安全点検、整備が主な経費であり、行事の開催は参加費を徴収している。
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	4
評価の説明 点数 4	ここ5年間の利用児童数は増加傾向である。小学生夏休みの事業に参加が増加している。

⑪	課長総括評価 合計点 40	平日の午前中は、親子での幼児の児童センター利用がみられ、午後に小学生の来館がある。学童を利用していない児童については、学校帰宅後の児童の利用場所として来館利用がある。学校の下校時刻が遅いので短時間利用だが、夏休みや冬休み、春休みなどは、午前中から来館し小学生木工教室やクッキング教室の参加がみられる。特に近年は夏休みの事業の参加者が増加した。
	今後の方向性	現状のまま継続

⑫	二次評価	
	今後の方向性	

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		子育て支援事業				
	担当課・係名		保健福祉課 子育て支援室				
	予算 科目	会計区分	一般会計	基本計 画体系	大分類	02 未来に羽ばたくチカラ	
		款	03 民生費		中分類	02 少子化社会への対応の充実	
		項	02 児童福祉費		小分類	01 子育て支援事業の充実	
目		08 子育て支援事業費	重要推進プロジェクト該当の有無 <input type="checkbox"/>				
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
	総事業費（千円）		4,298	4,236	4,297	4,263	4,341
	財源 内訳	国県支出金	4,159	2,600	0	2,635	2,226
		その他特定財源	139	206	120	143	125
		一般財源	0	1,430	4,177	1,485	1,990
※H29・H30予算は最終予算額。R1は9月補正後の額。							
③	対象（誰、何を対象にするのか）						
	・未就学児童とその保護者						
④	目的・意図する成果（どのような成果をもたらしたいのか）						
	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代の育児者に対し、育児の不安解消や安心して子育てができるよう支援する。 ・地域全体で子育て支援の基盤を形成し、総合的に育児支援を行う。 ・地域全体で子育てを支援する基盤を形成し、育児不安の解消や地域における子育て家庭に対する総合的な支援事業を効果的、継続的に実施することで安心して産み育てられる環境の整備を図る。 ・地域の各種団体・関係機関とのネットワークを構築し、子ども達を地域で見守り、地域に根ざした子どもの環境づくりの充実を図る。 						
⑤	事業概要						
	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援センター事業 <ul style="list-style-type: none"> ①遊びの広場（火曜日、木曜日） ②特別保育事業（講座、イベント開催） ③世代間交流事業 ④母親クラブ ⑤子育てホットダイヤル（相談） ・子育てネットワーク推進会議 ・要保護児童対策地域協議会 						
⑥	事業を取り巻く状況の変化について						
	<p>・3歳児以上は幼稚園に入れることから、在宅で過ごす未就学児童は減少している。しかし、社会情勢として子育て母親は一人で育児をするような状況であり、社会から孤立してしまい、健全な子育てをすることが難しい一面もあり、今後ますます、子育て支援センター等を利用して大切な子育て時期を母子共々健全に健やかに見守っていく必要がある。</p>						
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等）						
	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども・子育て支援法 ・色麻町子育て支援センター事業実施要綱 						
⑧	事業の活動指標（事業の活動量を示す数値）						
	指標名			H28	H29	H30	
A	来館利用者数	単位：人	実績値	9,688	11,622	8,784	
			目標値	8,000	8,000	8,000	
定義		・なかよしキッズ・すくすくサロンの子育てサークルを定期的に開催し、子育て世帯の交流の場を提供し育児に関する知識と遊びの広場を開催。					
B	開催回数	単位：回	実績値	90	91	95	
			目標値	80	80	80	
定義		・なかよしキッズ・すくすくサロンの子育てサークルの開催回数。					
⑨	事業の成果を測る指標（事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値）						
	指標名			H28	H29	H30	
A		単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							
B		単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	5
イ 最も適切な方法で行われている	4
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	5
評価の説明 点数 14	関係機関と連携している。
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	5
イ 目的を達成するために有効な事業である	5
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	5
評価の説明 点数 15	保護者同士の交流や子育てについての情報交換など、長期的に見て有効な事業である。
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	5
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	4
ウ 受益者負担は適正である	5
評価の説明 点数 14	保健福祉課の保健師、栄養士との連携も図れ子育てについての相談や指導等も受けられ、子どもの健全育成には欠かせない事業である。
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	5
評価の説明 点数 5	子育て中の様々な相談や指導も受けられ、子どもの健やかな成長に欠かせない事業である。

⑪	課長総括評価 合計点 48	核家族が多くなり地域の関わりが薄れる中、在宅で育児している若い世代の保護者に対し安心して子育てができるよう地域全体で総合的、効果的、継続的に支援することは必要であり、子育て支援センターの役割は大変重要である。
	今後の方向性	現状のまま継続

⑫	二次評価	
	今後の方向性	

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		幼保連携型施設（認定こども園）整備事業				
	担当課・係名		保健福祉課 子育て支援室				
	予算 科目	会計区分	基本計 画体系	大分類	02 未来に羽ばたくチカラ		
		款		中分類	02 少子化社会への対応の充実		
項 目		小分類		01 子育て支援事業の充実			
		重要推進プロジェクト該当の有無 <input type="checkbox"/>					
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
	総事業費（千円）		0	0	0	0	0
	財源 内訳	国県支出金	0	0	0	0	0
		その他特定財源	0	0	0	0	0
		一般財源	0	0	0	0	0
※H29・H30予算は最終予算額。R1は9月補正後の額。							
③	対象（誰、何を対象にするのか）						
・未就学児童とその保護者							
④	目的・意図する成果（どのような成果をもたらしたいのか）						
・少子化による児童への影響と職員配置の効率、施設の老朽化、分散化に伴う維持管理の増大、保護者の利用効率等を解決できる効果が期待できる。							
⑤	事業概要						
<ul style="list-style-type: none"> 幼保連携型認定こども園整備事業 木造平屋作り 敷地面積 15,000㎡ 延べ床面積 2,500㎡で積算 ※参考：川崎こども園：延べ床面積 2,128㎡ おおひら万葉こども園：延べ床面積 2,132㎡ 							
⑥	事業を取り巻く状況の変化について						
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等）						
⑧	事業の活動指標（事業の活動量を示す数値）						
指 標 名			H28	H29	H30		
A	単位：	実績値	0	0	0		
		目標値	0	0	0		
定義							
B	単位：	実績値	0	0	0		
		目標値	0	0	0		
定義							
⑨	事業の成果を測る指標（事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値）						
指 標 名			H28	H29	H30		
A	単位：	実績値	0	0	0		
		目標値	0	0	0		
定義							
B	単位：	実績値	0	0	0		
		目標値	0	0	0		
定義							

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	3
イ 最も適切な方法で行われている	3
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	4
評価の説明 点数 10	適切な方法である。
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	5
イ 目的を達成するために有効な事業である	5
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	5
評価の説明 点数 15	有効な事業である。
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	5
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	5
ウ 受益者負担は適正である	5
評価の説明 点数 15	適正である。
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	-
評価の説明 点数 0	有効な事業である。

⑪	課長総括評価 町の将来像実現に有効な事業であるが、今後検討が必要である。 合計点 40
今後の方向性	現状のまま継続

⑫	二次評価
今後の方向性	

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		幼児教育事業				
	担当課・係名		社会教育課 社会教育・体育振興・				
	予算 科目	会計区分	一般会計	基本計 画体系	大分類	02 未来に羽ばたくチカラ	
		款	10 教育費		中分類	02 少子化社会への対応の充実	
		項	05 社会教育費		小分類	01 子育て支援事業の充実	
目		01 社会教育総務費	重要推進プロジェクト該当の有無 <input checked="" type="checkbox"/>				
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
	総事業費（千円）		180	175	180	175	180
	財源 内訳	国県支出金	0	0	0	0	0
		その他特定財源	0	0	0	0	0
		一般財源	180	175	180	175	180
※H29・H30予算は最終予算額。R1は9月補正後の額。							
③	対象（誰、何を対象にするのか）						
町内の幼児及びその保護者（町内幼稚園、保育所、子育て支援センター）							
④	目的・意図する成果（どのような成果をもたらしたいのか）						
健康な心や体が作られ、基本的な生活習慣を身につける重要な幼児期に、遊びや創作活動、芸術鑑賞をとおして情操を育む事業を実施する。							
⑤	事業概要						
人形劇、体育遊び、あそびうたコンサート等の実施。							
⑥	事業を取り巻く状況の変化について						
社会生活の一步を踏み出す大切な幼児期における情操教育の充実は、極めて大切な教育課題となってきた。							
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等）						
なし							
⑧	事業の活動指標（事業の活動量を示す数値）						
指標名			H28	H29	H30		
A	単位：回	実績値	9	10	10		
		目標値	10	10	10		
定義	講座等を実施した回数						
B	単位：	実績値	0	0	0		
		目標値	0	0	0		
定義							
⑨	事業の成果を測る指標（事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値）						
指標名			H28	H29	H30		
A	単位：人	実績値	799	771	760		
		目標値	800	800	800		
定義	実施した講座等に参加した延人数。目標値は、町内保育所児・幼稚園児・支援センター親子の合計人数とする。						
B	単位：	実績値	0	0	0		
		目標値	0	0	0		
定義							

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	4
イ 最も適切な方法で行われている	4
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	4
評価の説明 点数 12	幼児期は、人生の最初のステップとして、社会生活の基礎を学ぶ大切な時期である。こうした時期に、町が学習の機会を提供することは必要である。
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	4
イ 目的を達成するために有効な事業である	4
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	4
評価の説明 点数 12	社会の基礎を学ぶために有効である。
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	4
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	4
ウ 受益者負担は適正である	4
評価の説明 点数 12	幼稚園、保育所、子育て支援センターなど関係各機関との連携を強化しながら、開催場所や内容を工夫するなど、経費の削減に努めている。
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	4
評価の説明 点数 4	子どもたちがふれあいを深め、身近に音楽や運動に触れる事業として回数及び内容は充実している。

⑪	課長総括評価 合計点 40	幼稚園、保育所、子育て支援センター等、関係部署と連携していくことは、将来を担う子供たちを育てる幼児教育において有効である。
今後の方向性	現状のまま継続	

⑫	二次評価	
今後の方向性		

令和元年度実施 色麻町事務事業評価シート

①	事務事業名		地域学校協働活動推進事業				
	担当課・係名		社会教育課 社会教育・体育振興・				
	予算 科目	会計区分	一般会計	基本計 画体系	大分類	02 未来に羽ばたくチカラ	
		款	10 教育費		中分類	02 少子化社会への対応の充実	
		項	05 社会教育費		小分類	01 子育て支援事業の充実	
目		01 社会教育総務費	重要推進プロジェクト該当の有無 <input type="checkbox"/>				
②	事業費の推移		H29予算	H29決算	H30予算	H30決算	R1予算
総事業費（千円）			1,200	1,175	673	655	989
財源 内訳	国県支出金		1,072	1,175	600	654	0
	その他特定財源		0	0	0	0	0
	一般財源		128	0	73	1	989
※H29・H30予算は最終予算額。R1は9月補正後の額。							
③	対象（誰、何を対象にするのか）						
<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援活動：小・中学校教員及び児童・生徒 ・地域活動：主に小・中学生 ・家庭教育支援活動：主に幼稚園児、小・中学生の保護者 ※それぞれの分野にボランティア・スタッフとして関わる人材の育成も含む。							
④	目的・意図する成果（どのような成果をもたらしたいのか）						
家庭・地域・学校が協働して子供を育てる仕組みづくりを行い、地域の教育力の向上や活性化を図り、地域全体で育てる環境づくりを図る。							
⑤	事業概要						
<ul style="list-style-type: none"> ・H29から協働教育プラットフォーム事業から事業変更 ・地域学校協働本部（会議） ・コーディネーター会議 ・学校支援活動：「学校支援ボランティア」の募集・登録及び学校の要請に応じた派遣 ・地域活動：学校教育外の場における体験活動機会の提供 ・家庭教育支援活動：家庭教育に関する講演会や子育て中の親の交流の場の提供 ・以上の内容を町内に広報するための広報誌「ほっとたいむ」の作成・発行 							
⑥	事業を取り巻く状況の変化について						
平成29年度から令和元年度は、県補助100%。 令和2年度以降は、国1/3、県1/3、町1/3の予定。							
⑦	根拠法令等（法律・条例・要綱等）						
社会教育法<義務化>							
⑧	事業の活動指標(事業の活動量を示す数値)						
		指標名		H28	H29	H30	
A	「地域教育活動分野」の事業実施数	単位：回	実績値	3	2	3	
			目標値	3	3	3	
定義		合宿通学、サマーキャンプ、こどものまち ※平成30年度目標値を下回った理由として、台風によるサマーキャンプの中止にある。					
B		単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							
⑨	事業の成果を測る指標(事業の目的がどの程度達成されたかを示す数値)						
		指標名		H28	H29	H30	
A	地域活動への参加者（対象に限る）	単位：人	実績値	169	167	134	
			目標値	140	140	140	
定義		合宿通学、サマーキャンプ、こどものまち					
B		単位：	実績値	0	0	0	
			目標値	0	0	0	
定義							

⑩ 目的妥当性の評価	
ア 町で行うべき事業である（民間や他の機関で実施する可能性）	4
イ 最も適切な方法で行われている	4
ウ 町民ニーズ及び今の社会情勢に合致している	4
評価の説明 点数 12	学校や地域ボランティアとの連絡調整や事業を進める上で、現在町主体で実施しているが、スタッフや関係者の多様性から、関係機関による協議会での運営も視野に入れる必要がある。平成29年度より、社会教育法において市町村に義務付けられた。
有効性の評価	
ア 長期的な効果が期待できる	4
イ 目的を達成するために有効な事業である	4
ウ まちの将来像実現に有効な事業である	4
評価の説明 点数 12	青少年の健全育成、家庭教育への支援、地域教育力の再生を目的として、家庭・地域・学校の協働により推進されており、有効な事業である。
効率性の評価	
ア 経費は適切かつ最低限である	4
イ 他の類似事業等との連携・調整はできている	4
ウ 受益者負担は適正である	4
評価の説明 点数 12	事業実施にあたっては、最小限の経費で実施するよう努めているが、事業を支えるスタッフへの謝金等については検討のうえ、資格の有無により、見直しを行った。受益者負担に関しては、その都度見直し、検討を行っている。
達成度の評価	
ア 事業の成果指標の目標値に対して実績は上がっている	5
評価の説明 点数 5	多くの子どもたちや大人が参加し、実績は良好である。

⑪	課長総括評価 家庭、地域、学校が協働で子どもを育てることは、地域の教育力の向上や活性化を図るうえでは有効な手段である。今後、多くのボランティアが参加し、交流の輪が広がることを期待するとともに、ボランティアの発掘が必要となってくる。
合計点	41
今後の方向性	現状のまま継続

⑫	二次評価
今後の方向性	